

2004年4月から2013年3月までに当院に脳血管障害で入院された患者さんへのお知らせ

「虚血性脳血管障害における経食道心エコーを用いた心血管病変の評価に関する研究」に関する情報開示

川崎医科大学附属病院
脳卒中科 松本 典子

虚血性脳血管障害（一過性脳虚血発作や脳梗塞）は、脳の血管が詰まり、脳へ血液が流れなくなることで起こる疾患です。脳の血管が詰まる原因は、脳血管そのものの動脈硬化で起こることもありますが、多くは心臓や、胸部大動脈、頸動脈などから血栓（血のかたまり）やコレステロールのかたまりなどが、脳血管へ流れ込み、脳血管に詰まることで起こります。したがって、虚血性脳血管障害では、病気の原因を調べて、治療法を決めるにあたり、心臓や胸部大動脈、頸動脈などの検査を行い、病気の原因を明らかにすることが大切です。経食道心エコーは、消化管内視鏡と似た形状の長い形態の装置を食道内へ挿入し、食道内より心臓や、胸部大動脈を観察することができる検査法です。経食道心エコーはすでに確立された検査手技として、世界的に広く行われています。経食道心エコーについてはプローブ挿入の手技を伴うため、他の超音波検査に比べ侵襲的な検査ですが、当院では全例検査に熟練した医師が指導する体制、かつ複数の医師にて行い、安全性の確立に努めながら検査を施行しております。

この経食道心エコーの所見と、患者さんの画像所見（CT、MRI、エコー、カテーテル検査）や臨床的特徴との関連についてはまだ詳しく分かっていません。そこで当院に入院された患者さんで、経食道心エコーを施行した方を対象に、画像検査や臨床的特徴などについて、患者さんの診療データを用いて後方視的調査研究を実施することにいたしました。

この研究は、2004年4月から2013年4月までに当科へ入院され、経食道心エコーを行った患者さんを対象としております。診療で得られた画像（CT、MRI、エコー、カテーテル検査）所見と脳卒中の重症度スケールや、血液検査所見などを比較して検討を行います。今回、この研究を行なうことについて患者さんのご理解とご協力を賜りたく存じます。またこの研究で得られた内容を学会や科学雑誌で公表することにつきましてもご了承いただきたく存じます。患者さんの情報については個人名や個人を特定できるデータは伏せており、当院の個人情報保護規定に従って厳密に管理し、第三者が閲覧することはありません。また、この研究で患者さんは不利益を被ることはないと考えております。なお本研究は倫理委員会の承認を得ております。利益相反については、利益相反委員会に自己申告書を提出し承認を得ております。この研究に対して、ご質問がある方は、下記担当者までご連絡ください。

担当： 川崎医科大学 脳卒中医学教室 講師 松本典子
岡山県倉敷市松島 577 TEL：086-462-1111 FAX：086-464-1128